



2024年10月29日

各 位

上場会社名 株式会社アーレスティ
代表者 代表取締役社長 高橋 新一
(コード番号 5852 東証プライム)
問合せ先責任者 執行役員経営企画部長 清水 敦史
(TEL 03-6369-8664)

営業外費用、特別損失及び法人税等調整額の計上並びに2025年3月期連結業績予想
(中間期・通期)の修正に関するお知らせ

当社は、2025年3月期中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)において、下記の営業外費用、特別損失及び法人税等調整額を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2024年5月17日に公表しました2025年3月期連結業績予想(中間期・通期)を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用(為替差損)の計上について

当第2四半期連結会計期間(2024年7月1日～2024年9月30日)において、為替相場の変動に伴い、営業外費用に為替差損約9億円を計上いたします。これは主に、当社グループが保有する外貨建て債権・債務を期末時点の為替相場で評価替えたことにより発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。なお、第1四半期連結会計期間(2024年4月1日～2024年6月30日)において約6億円の為替差益を計上しているため、当中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)の連結損益計算書においては、約3億円の為替差損を営業外費用に計上いたします。

2. 特別損失(特別退職金)の計上について

当中間連結会計期間において、2024年9月24日付で公表しました「希望退職募集の結果及び特別損失計上に関するお知らせ」に記載のとおり、国内拠点の人員規模適正化を目的として実施した希望退職募集に係る特別退職金として約7億円、及び中国拠点においても中国自動車市場における今後の需要動向の変動を鑑み、生産体制の合理化を目的とした早期退職者への特別退職金として約3億円の合計約10億円を特別損失に計上いたします。

3. 法人税等調整額(繰延税金資産の取崩し)の計上について

当中間連結会計期間において、アーレスティメヒカーナS.A. de C.V.は、IAS第12号(法人所得税)における繰延税金(税効果会計)の計算において、会計上の機能通貨(米ドル)と、税務基準額の計算に用いる現地通貨(メキシコペソ)が異なっていることから、非貨幣性資産及び負債の現地通貨建税務基準額(メキシコペソ)を機能通貨建金額(米ドル)に換算替えた金額(決算日レート)と会計上の簿価(取得日レート)との差額を一時差異として繰延税金資産及び負債を認識しておりますが、適用する為替相場(米ドル/メキシコペソ)が大きく変動したことにより、繰延税金資産の一部を取崩し、法人税等調整額として約7億円を計上いたします。なお、当該金額は今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。

4. 業績予想の修正

(1) 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想数値の修正(2024年4月1日～2024年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	77,000	1,300	1,000	100	3.90
今回実績(B)	78,200	△250	△540	△2,700	△108.20
増減額(B-A)	1,200	△1,550	△1,540	△2,800	
増減率(%)	1.6	△119.2	△154.0	—	
(ご参考)前第2四半期実績(2024年3月第2四半期)	77,750	601	938	900	34.82

(2) 2025年3月期通期 連結業績予想数値の修正 (2024年4月1日~2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	159,000	4,000	3,500	2,000	78.07
今回発表予想(B)	160,200	3,050	2,860	100	4.01
増減額(B-A)	1,200	△950	△640	△1,900	
増減率(%)	0.8	△23.8	△18.3	△95.0	
(ご参考)前期実績 (2024年3月期)	158,254	2,291	2,574	△7,699	△300.55

(3) 修正の理由

当第2四半期(中間期)の売上高は、ダイカスト事業日本及びアジアにおいて、一部主要顧客の販売不振等により受注量が減少しましたが、期中為替レートが計画レートに対して円安水準で推移した影響もあり前回予想と同水準の見通しとなりました。

営業利益は、受注量の減少に対し、生産体制の合理化や固定費の削減、販売費及び一般管理費の圧縮を推進しましたが、ダイカスト事業北米(米国工場)における生産性の悪化や人件費等の製造コストの上昇に加え、アルミ地金価格上昇に伴いグループ全体での原材料価格高騰による調達コストの増加もあり、前回予想を下回る見通しとなりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する中間純利益は、営業利益の減少に加え、上記の為替差損、特別退職金(中国拠点の約3億円)及び法人税等調整額の発生等により、前回予想を下回る見通しとなりました。

また、通期連結業績予想につきましても、第2四半期(中間期)までの業績動向並びに各事業セグメントにおける最新見通しの反映に加え、下期はアルミ地金市況の落ち着きや生産性の改善、価格は正活動による一定の成果を見込んでおり、特別利益についても、本日公表しました「連結子会社の固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」に記載の固定資産売却益約7億円の発生を見込み修正いたします。

なお、今回の業績予想の修正に伴う1株当たり配当予想(中間10円・期末18円の合計28円)の変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の補足資料

通期連結業績予想のセグメント情報

セグメント	売上高(百万円)			セグメント利益(百万円)		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
ダイカスト事業 日本	61,700	62,720	1020	700	1,410	710
ダイカスト事業 北米	50,300	50,080	△220	1,600	200	△1,400
ダイカスト事業 アジア	35,100	35,630	530	1,100	1,020	△80
アルミニウム事業	7,300	7,270	△30	100	160	60
完成品事業	4,600	4,500	△100	500	450	△50
セグメント間取引消去	—	—	—	—	△190	△190

為替レート的前提(第3四半期以降:140.0円/米ドル、20.0円/元、1.70円/インドルピー)

(前回予想:140.0円/米ドル、20.0円/元、1.70円/インドルピー)

以上